

令和 6 年4月吉日
報告者 圓井珠子
アドバイザー 鈴木瞬(金沢大学)

被災・避難状況と今後の子ども支援・子育て支援に関する アンケート調査結果報告書

石川県でフリースクールや子育て支援を行う NPO 法人ワンネススクールでは、「被災したこどもの居場所づくり支援」事業の一環として、金沢大学や金沢市子育て支援課との連携のもと、被災・避難状況と今後の子ども支援・子育て支援に関するアンケート調査を実施しました。

以下、その単純集計結果を報告します。

1. 調査名

被災・避難状況と今後の子ども支援・子育て支援に関するニーズ把握調査

2. 調査の目的

能登半島地震発災直後から、ワンネススクールは行政や地域と連携しながら、子どもたちや保護者のために活動を行ってきた。今後も子どもや保護者の皆様に対するサポートを行いたいと考えており、実際の被災後の状況、今後の子育てや子どもを取り巻く環境について感じている悩みや求められている支援を把握し、生の声を国に届けるとともに、届いた声を大切に活用し、ミスマッチのない支援に繋げていくため、本調査を行った。

3. 調査対象

能登半島地震で被災された子育て世代(18 歳未満のお子さんを持つ)の保護者に対して、各種支援団体や自治体を通じて依頼した。その結果、845 件の回答を得た。

4. 調査期間

令和 6 年 3 月 15 日～3月末(回収は 4 月 9 日まで)

5. 調査方法

Google フォームを活用した Web アンケート。この他、紙面での回答や聞き取りも実施。

6. 調査結果(別添資料)

アンケートの単純集計結果は、別添の資料の通り

以上

(添付資料)

被災・避難状況と今後の子ども支援・子育て支援に関する ニーズ把握調査結果報告書(単純集計結果)

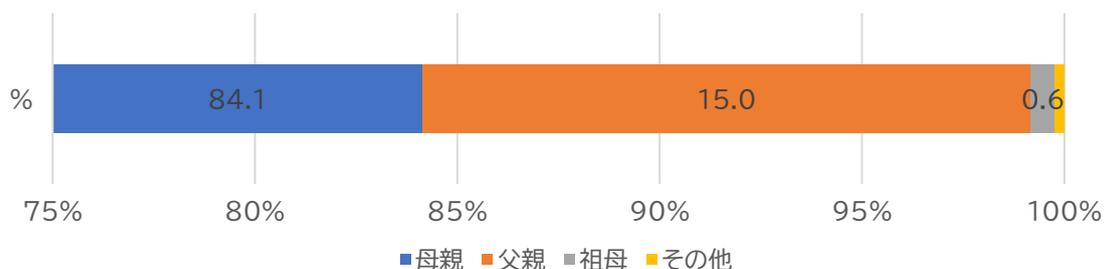
ワンネススクールでは、能登半島地震発災直後から、行政や地域と連携しながら、子どもたちや保護者のために活動を行ってきた。今後も子どもや保護者の皆様に対するサポートを行いたいと考えている。実際の被災後の状況、今後の子育てや子どもを取り巻く環境について感じている悩みや求められている支援を把握し、生の声を国に届けるとともに、届いた声を大切に活用し、ミスマッチのない支援に繋げていくため、能登半島地震で被災された子育て世代(18歳未満のお子さんを持つ)の保護者を対象に、被災・避難状況と今後の子ども支援・子育て支援に関するニーズを把握するためアンケート調査を実施した。アンケートは、Google フォームを活用した Web アンケートとともに、紙面での回答や避難所や被災者対象イベント等での聞き取りも行った。ここでは、これらの結果を踏まえたアンケート結果の概要を報告する。

なお、調査は、令和6年3月15日～3月31日にかけて、SNS や二次避難先、各自治体行政への呼びかけ、奥能登地域の訪問などを通して実施した。その結果、845 件の回答を得た。これらの声を大切に活用し、今後の支援につなげたいと考えている。

F1. 子どもからみた回答者の属性(n=845)

本アンケートの回答者の属性は母親が8割を超えるものの、父親や祖母による回答も見られた。

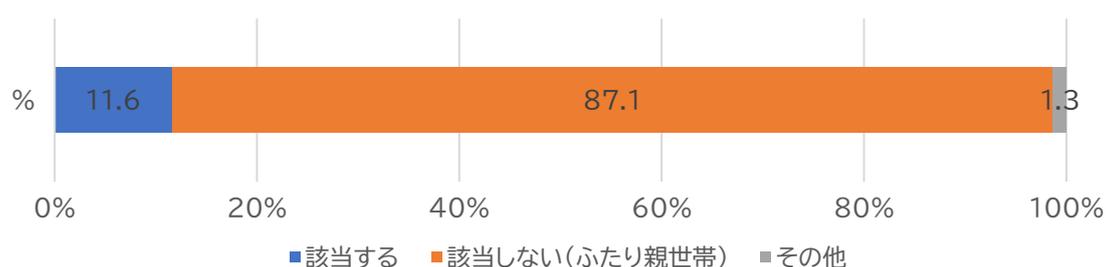
属性	件数	%
母親	711	84.1
父親	127	15.0
祖母	5	0.6
その他	2	0.2



F2. 「ひとり親世帯」への該当／非該当(n=845)

本アンケートの回答者の多くがふたり親世帯であったが、ひとり親世帯の保護者による回答も得られた。

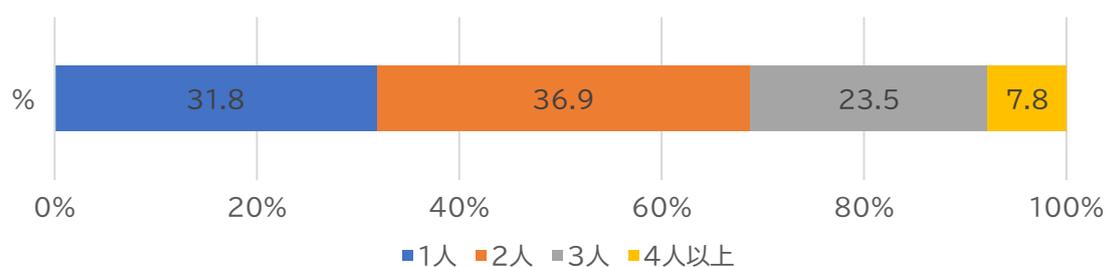
ひとり親世帯に…	件数	%
該当する	98	11.6
該当しない(ふたり親世帯)	736	87.1
その他	11	1.3



F3. 世帯における子ども(18歳未満)の人数(n=845)

世帯における子どもの人数は1人から3人にかけてそれぞれ100件以上の回答があり、分散した結果となった。

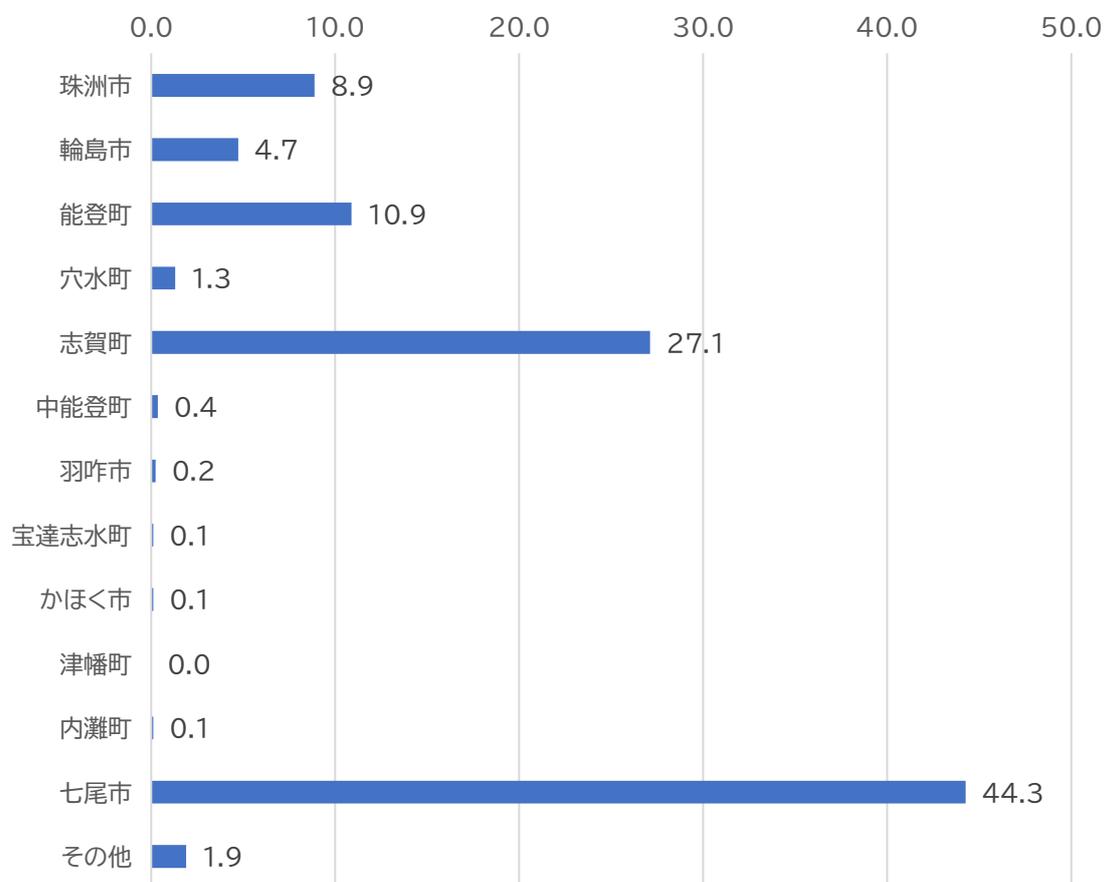
人数	件数	%
1人	164	31.8
2人	190	36.9
3人	121	23.5
4人以上	40	7.8
計	515	100.0



Q1. 能登半島地震前の居住市町村(n=845)

本アンケートの回答者の半数近くが七尾市であるものの、志賀町や能登町、珠洲市などの地域の回答も一定程度得られた。

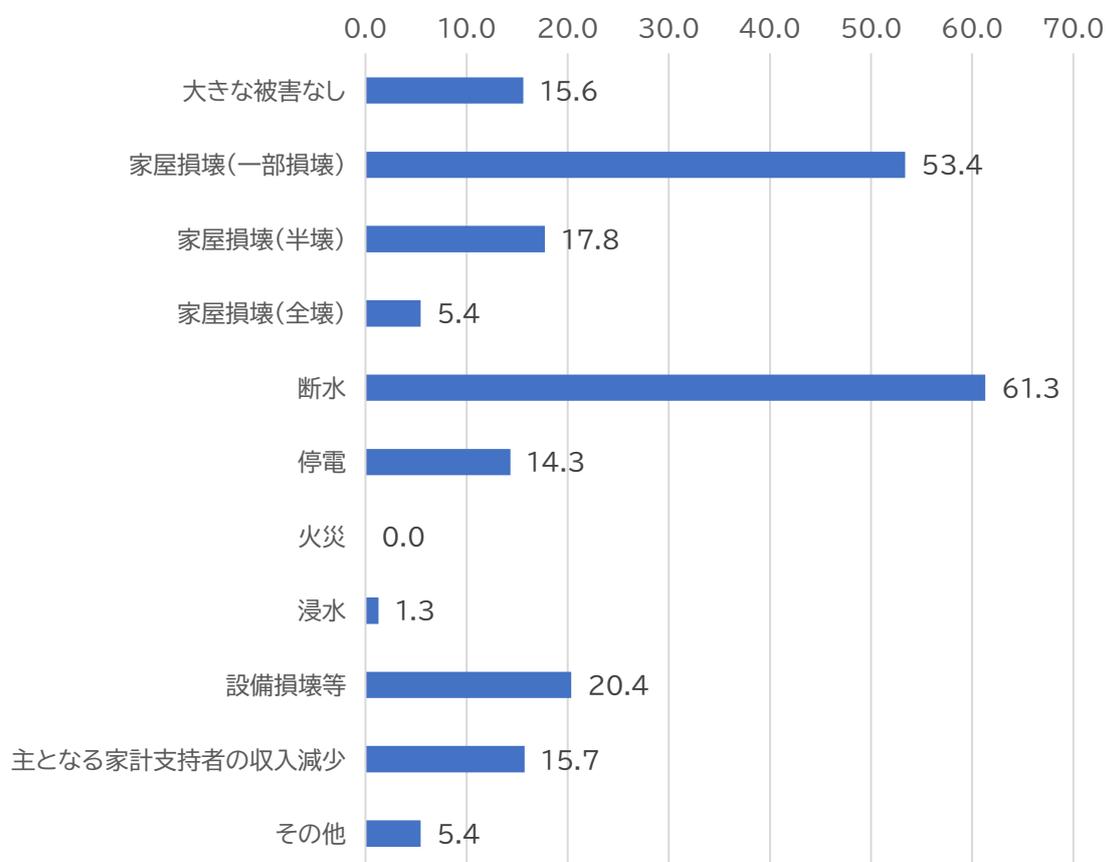
市町村名	件数	%
珠洲市	75	8.9
輪島市	40	4.7
能登町	92	10.9
穴水町	11	1.3
志賀町	229	27.1
中能登町	3	0.4
羽咋市	2	0.2
宝達志水町	1	0.1
かほく市	1	0.1
津幡町	0	0.0
内灘町	1	0.1
七尾市	374	44.3
その他	16	1.9



Q2. 被害状況について(複数回答可、n=845)

被害状況として多かったのは、断水や家屋損壊(一部損壊)であり、半数以上に及んでいる。また、何らかの家屋損壊があったという回答は70%を超えていた。家屋や設備の損壊以外では、主となる家計支持者の収入減少や停電が多い。一方で、大きな被害なしという回答も同程度であった。

被害状況	件数	%
大きな被害なし	132	15.6
家屋損壊(一部損壊)	451	53.4
家屋損壊(半壊)	150	17.8
家屋損壊(全壊)	46	5.4
断水	518	61.3
停電	121	14.3
火災	0	0.0
浸水	11	1.3
設備損壊等	172	20.4
主となる家計支持者の収入減少	133	15.7
その他	46	5.4



Q3. 地震後、避難した場所と滞在期間(n=642)

以下の通り、被害の大きいエリアの記述を抜粋した。

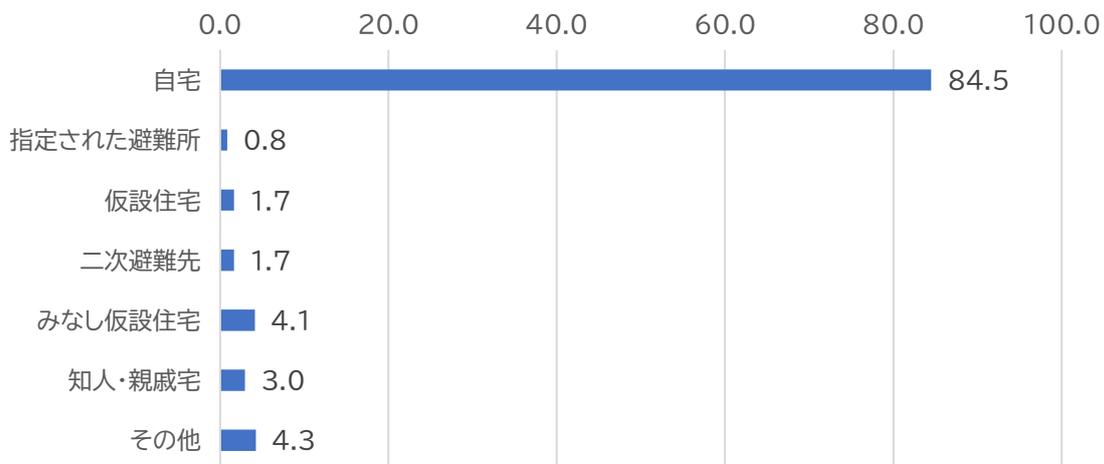
- ・大屋小学校 3 日、実家2ヶ月半現在も
- ・1/21~2/15 すずや今日楼 2/16~3/31 センターポイント
- ・ゲストハウスココット(2/7~2/19)
- ・自主避難所(田中孫右衛門宅)1/2~2/29
- ・自衛隊駐屯基地近く 1/1~1/2 輪中グラウンド車中泊 1/2~1/5 一本松公園車中泊 1/5~1/8 金沢市へ 1/8 から今に至る
- ・避難所 3 週間、金沢市の実家 1 週間と少し、電気が来たのでその後は自宅
- ・松風台保育所 1/1~1/24
- ・自宅付近で車中泊 10 日
- ・門前中学校 1 週間
- ・4 日間車中泊のち自宅に戻る
- ・①知らない人の車で車中泊(1/1~1/2)②門前中学校(1/2~)
- ・車内 1/1~1/3 自宅 1/4~1/5 福井県実家 1/6~1/7 自宅 1/7~
- ・車中泊(1/1~1/5)、建設会社の事務所(1/6~1/12)
- ・小木小学校避難所(1 月 1 日~3 月 23 日)
- ・①恵寿病院(1/3~1/9)②叔母の家(1/9~2/10)③みなし仮設(2/10~)
- ・諸岡公民館(2 月 12 日~3 月 28 日現在も)
- ・子供たちは金沢、母と父は仕事から離れられず
- ・鳳至小学校 1 月 1 日~1 月 5 日
- ・①車中泊(1/1~1/2)②鳳至小体育館(1/2~1/3)③親戚宅(1/3~1/4)④津幡知人アパート(1/4~現在まで)
- ・瑞穂公民館 1/1~1/10 までの 10 日間
- ・車内 4 日→金沢 5 日→能登町自宅
- ・①車中泊 1 月 1 日②能登三郷 1 月 2 日③金沢の親戚の家 1 月 4 日~3週間集会所
- ・1/1-1/4 小木中学校、1/4-1/21 金沢義姉の家
- ・自宅前道路にて車中 3 日間
- ・①敷地横のビニールハウス 1/1~2/22 ②母家横の倉庫件作業所 2/22~現在も
- ・小木中学校 6 日間、ホテル 3 週間
- ・緑ヶ丘中学校 1/1~1/10、その後親戚宅に 2 次避難中
- ・飯田小学校体育館(1/1~1/8)1/9~現在→みなし住宅
- ・正院小学校(70 日)

・1/1～1/11 まで珠洲市立飯田小学校、1/12～現在、白山市の借家で二次避難生活
 ・馬縹のハウスで孤立(1/1～1/6)緑丘中学校体育館(1/6～) …ほか多数

Q4. 2024 年 4 月 1 日以降の生活場所(予定) (n=845)

本アンケートの回答者の多くが 4 月以降は自宅で生活する予定である。

生活場所(予定)	件数	%
自宅	714	84.5
指定された避難所	7	0.8
仮設住宅	14	1.7
二次避難先	14	1.7
みなし仮設住宅	35	4.1
知人・親戚宅	25	3.0
その他	36	4.3



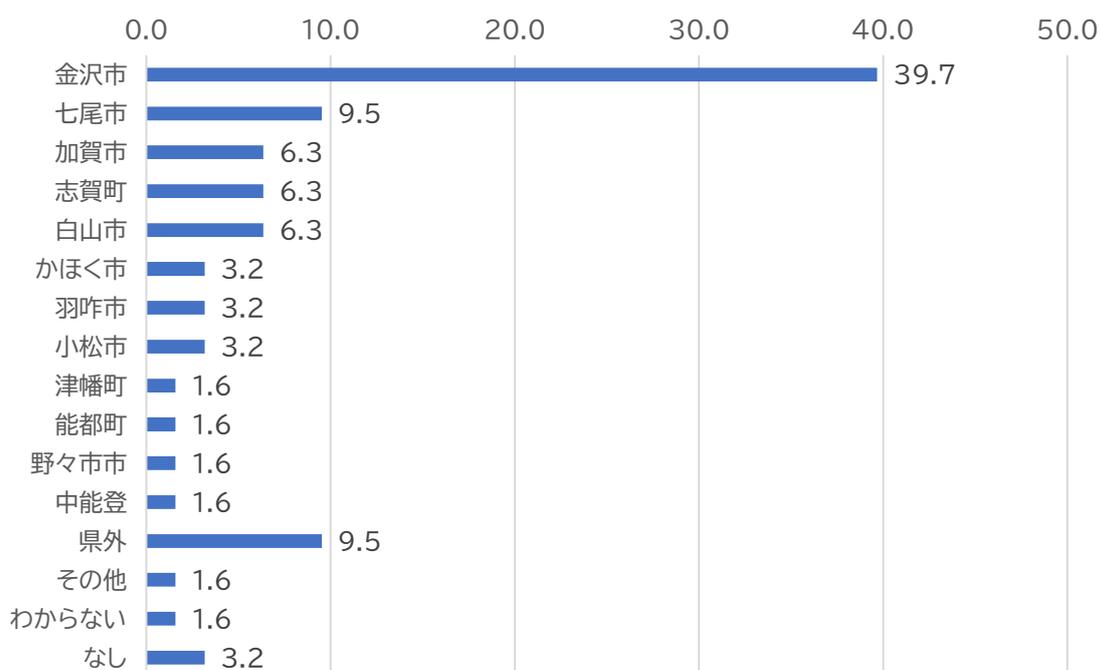
※その他回答より抜粋

- ・見通しが立たずどうしたらいいかわからない
- ・わからない
- ・仮設住宅の申し込みをしたが抽選の為入居出来る可能性が低く、アパートを探しているが、断られたり七尾市で今入居出来る所が少なく、どうしていいかわからない。
- ・母家横の倉庫兼作業所
- ・父親の会社の会議室

Q5. Q4 で「二次避難先」「みなし仮設住宅」を選択した場合、あるいは生活する場所が Q1 の回答と異なる場合の 4 月 1 日以降に生活する市町村(n=63)

震災時の居住地と異なる場所や、二次避難先、みなし仮設住宅で生活すると回答した方たちの 4 月以降の生活地域(市町村)で最も多かったのは金沢市である。また、県外で生活するという方も少なからずいた。

市町村名	件数	%
金沢市	25	39.7
七尾市	6	9.5
加賀市	4	6.3
志賀町	4	6.3
白山市	4	6.3
かほく市	2	3.2
羽咋市	2	3.2
小松市	2	3.2
津幡町	1	1.6
能都町	1	1.6
野々市市	1	1.6
中能登	1	1.6
県外	6	9.5
その他	1	1.6
わからない	1	1.6
なし	2	3.2



Q6. 被災後(避難中)、利用できた子ども支援・子育て支援(複数回答可、n=808)

被災後(避難中)、最も利用できた支援は、子どもや生活に関する情報や物資の提供であり、過半数を超えていた。また、子どもの一時預かりや居場所の提供が10%近く選択されていた。だが、回答者の3割が、援と感じるものは受けていないとも回答していた。

被災後(避難中)、利用できた子ども支援・子育て支援	件数	%
1. 子どもや生活に関する情報や物資提供	487	60.3
2. 子どものことや生活に関する不安や悩みの相談	54	6.7
3. 不安や悩みが話せる場(コミュニティ)への参加	29	3.6
4. 民生委員や児童委員など、地域の人からの支援	47	5.8
5. 病気や障害など医療に関する専門的な支援	32	4.0
6. 子どもの一時預かり	88	10.9
7. 学習支援	51	6.3
8. 安心して過ごせる「居場所」の提供	79	9.8
9. 支援と感じるものは受けていない	242	30.0
10. その他	49	6.1



Q7. Q6で「一時預かり」「学習支援」「居場所」を利用した子どもの年齢(n=175)

以下のように、自由記述の回答より結果を一部抜粋した。

年齢	件数
0~2歳	26
3~5歳	70
6~8歳	70
9~11歳	60
12~14歳	40
15歳以上	28

Q8. 今後、生活する環境であるといい子ども支援・子育て支援(複数回答可、n=795)

今後、生活する環境においてあるといい子ども支援・子育て支援として最も多かったのは、子どもや生活に関する情報や物資の提供であり、過半数を超えていた。次いで多かったのが、学習支援や安心して過ごせる「居場所」の提供、子どものことや生活に関する不安や悩みの相談であり、いずれも3割を超えていた。

特に、被災時には支援の機会が得られにくかった子どものことや生活に関する不安や悩みの相談や、不安や悩みが話せる場(コミュニティ)への参加、学習支援などのニーズが高まっていることが読み取れる。

今後の生活環境にあるといい子ども支援・子育て支援	件数	%
1.子どもや生活に関する情報や物資提供	509	64.0
2.子どものことや生活に関する不安や悩みの相談	256	32.2
3.不安や悩みが話せる場(コミュニティ)への参加	160	20.1
4.民生委員や児童委員など、地域の人からの支援	85	10.7
5.病気や障害など医療に関する専門的な支援	164	20.6
6.子どもの一時預かり	220	27.7
7.学習支援	332	41.8
8.安心して過ごせる「居場所」の提供	281	35.3
9.その他	61	7.7



Q9. (Q8で「居場所」を選択した方のみ)今後地域にあってほしい「子どもの居場所」
(n=231)

以下の通り、自由記述の回答より一部抜粋した。

- ・子供同士が集まる場所
- ・家や避難場所にずっといることが多くなったので遊べたり体を動かせる場所があると嬉しい。
- ・障害者の放課後の過ごせる環境作りやディサービスなど
- ・体をめいっぱい動かせる場所。安心して遊べる場所。
- ・安らかな場所で、大人が見守る中、自由に体を動かしたり、本を読んだり音楽を聴いたり五感を使った遊びを取り入れて、子どもたちの居場所が作れると嬉しい。
- ・騒いでも問題なく走り回れるようなスペースがほしい
- ・子供だけで過ごせる児童センターや安心して公園で遊べる機会があって欲しい。
- ・いつでも子供を無償で預けることができ、また、その場所で支援物資を貰えたり相談に乗って貰えるような場所。そして保育士さんなどがいて安心して預けられる環境がうれしい。
- ・1泊でいいので親子でゆっくり宿泊出来る支援等があればよかった。似たような支援はあったが、利用しにくかった。
- ・学習支援の場
- ・児童館、フリースペース。
- ・子供が遊んだりゴロゴロしたり出来る場所、何か楽しめる催しがある場所、学習支援をしてもらえる場所、親も一緒にくつろげる場所
- ・「能登高校わくわくプラザ」が良かった。継続してほしい。子供達が緊張感なく、学年関係なく、制約少なく、ある程度自由に過ごさせて頂き、おやつや飲み物、物資の提供も助かった。
- ・体育館が使えるようになってスポーツ少年団の活動が出来るようになって欲しい。
- ・放課後、障害の児童も安心して預けられる場所
- ・学校が終わってバスを待つ間安心して遊べる勉強できる場所があるといいなと思います。
- ・小学生の為の広めのスペースがある学童保育
- ・子どもの特性を理解して接してくれる人たちがいてお友達もいる環境
- ・笑顔が溢れるところ
- ・屋内外で子供が身体を動かして遊べる場所。静かに過ごせる場所もあれば良いと思う。
- ・同年代が気軽に集まれる場所
- ・親以外のお兄さんお姉さんに相談したり雑談したりできる場所。
- ・金沢市で、避難してきているお友達と気軽に会える場所があると嬉しい。
- ・無料で使用できる施設
- ・屋内で天候関係なく遊ばせられる場所があるといいと思います。談話ルーム等併設し、大人達もくつろいだり交流したりする場があるといいと思います。土日祝日も利用できる場
- ・同じ被災地からの子どもたちが集まれる場所が必要
- ・年齢にもよりますが、見守りや学校から帰ったときに、大人が待っている環境
- ・土日祝日に室内外で遊べて、イベントがあるとよい。子ども食堂があると助かります。

- ・危険のない、信頼できる人に囲まれた環境。気にかけてくれる大人が複数いてくれる場所。
- ・不登校の子の居場所
- ・自分をフェアにみてくれる場所
- ・自分が自分らしくいられる場所
- ・珠洲市においては、外で自由に遊べるフィールド”
- ・外で遊ぶにはまだ安全が確認されていないので友達と遊ぶ場所がなくネットの中で友達と遊んでいる。早く友達と遊べる場所を作って欲しい
- ・地震の後は特に、放課後に 1 人で家で過ごすことを怖がっていて、そんなときに寄れる場所があったら嬉しいです。(高学年になると学童利用に制限が出るため)
- ・災害に強い場所で安心して過ごせる施設
- ・断水中の子供達のトイレに一番困ったのでそこを支援できる場所
- ・食事が出て、地震や津波の不安がない場所
- ・中学校や高校などにコミュニティの場を設ける必要があると思う。
- ・コミュニティセンターといった市管轄の施設や廃校舎など安全確認が出来たものを活用し被災された方、子供達への配慮をしてもらいたい。
- ・大人がうるさいと怒らない場所。
- ・避難者の方に気使わずのびのび遊べる場所
- ・家庭とも学校とも違うサードプレイス、大人から指示されルールを押し付けられるのではなく子どもたちの自発的な活動や自治を尊重される場
- ・子どもの悩みなどを気軽に話ができる場所がほしい。
- ・安心して遊べ、行けば誰かと交流できる場所。大人も子供もそんな場所があると嬉しい。
- ・子どもだけの合宿、キャンプなど日常を忘れる楽しい企画。親も子も被災で疲れている。親は休みたい。
- ・ひとり親が仕事中でも安心して子どもを預けられる居場所
- ・親の送迎が必要ない距離に、子どもが自由に行き来できる場所。遊びたい子は遊べて、学習したい子は学習できる場所。
- ・安全で広くて明るくて顔見知りの大人が居る所
- ・ちょっとしたカフェ飲食スペースや学習スペース自由に使えるフリースペース、遊べるスペース、子供からシニアまで軽く運動や身体を動かせるスペースなど幅広い人が気軽に利用できるような複合施設があると年齢限定されず地域の人々の交流の場も増えるのでは。
- ・ライフラインが不自由なく、周りに配慮する必要がなく、震災前と変わらず過ごせる場所
- ・子ども同士が楽しく遊べる場所 声を出しても迷惑にならない空間、親と離れてリフレッシュできる場所
- ・田舎のおばあちゃん家のような(縁側があって畳があって、座卓で子どもたちが宿題できて…というような)雰囲気居場所
- ・騒いでも迷惑にならない場所
- ・七尾市にある「ひなたぼっこ」(学童、フリースクール)のような施設。ここのスタッフさん達は、発達障害の有無に関係なく、子供たち一人一人を受け入れてくれる。

Q10. いま子育てについて困っていること、感じていること、誰かに相談したいと思っていることなど(n=384)

以下の通り、自由記述の回答より一部抜粋した。

- ・慣れない土地で 1 人で子育てしていること(子どもの父親が輪島で仕事をしているため)
- これから先、地元に戻るか悩んでいる(輪島市)。
- ・震災が起きてから 1 人で出来ていたことができなくなったり、誰かといないと不安に思ったりすることが多くなった(輪島市)
- ・毎日運動していた子どもたち、サッカーができる環境がほしい(輪島市)
- ・この状態で、震災後、3 ヶ月近くも家にずっといた生活から、4 月から急に小学校が始まるのが生活環境の変化などで精神的にしんどくならないか不安(輪島市)。
- ・被災地の学校だからと他の学校があるものが、自分たちの学校にはないという状態になるのがかわいそう(輪島市)。
- ・ここでの生活を選んだ親の責任感を重く感じている(輪島市)。
- ・経済的な不安(輪島市)
- ・仮設に居ると同世代の子供がまわりに居ないので遊び相手が居ないのでゲームばかりになってしまうこと(輪島市)
- ・学校もまだまだ避難所で教室が充分ではなく、トイレも仮設トイレ、給食も再開が不透明、不安だらけです(輪島市)。
- ・震災で恐怖心を覚え、1 人での行動を怖がったり常に変わる環境の変化に子どもながらに不安を抱えていると思います。学習も落ち着いて取り組めていないのでそこも心配(輪島市)
- ・市道までは水がきているが、自宅の水道管が傷んでいて水が出ません。お風呂が使えないため、自衛隊の入浴支援に行くように言っても、年頃で行きたくないと言います。そのため、子供は輪島に帰って生活することが難しいです(輪島市)。
- ・被災地は遊ぶ場所がない。全部仮設住宅になっている(輪島市)。
- ・経済的な理由で今までのように子供に習い事をさせてあげられなくなった。放課後は外で遊ぶこともなく家に居るので、成長の機会を失ってしまうのではと不安(輪島市)。
- ・避難所なのでプライベートな空間がなく親子でゆっくり過ごせないこと(輪島市)。
- ・行動できる範囲が限られているので、元気よく体を動かす機会が減って、ストレスが溜まっている。思いきり遊べる場があると、子どもは満足して素直になってくれるように感じる(輪島市)
- ・夜中に泣く、地震の話怖がる(輪島市)
- ・親子ともに毎日気持ちのアップダウンが激しくて辛い(輪島市)。
- ・子どもが楽しく思いきり体を動かせる環境がなければ子どもも心身ともに元気でやっついていけるのかという不安がある。仮設住宅も大事ですが、運動できる環境も整えてほしい(輪島市)。
- ・今後の、生活場所をどうすればいいかわからない(珠洲市)
- ・一人で留守番させるのが怖い。
- ・小学生の子は環境が変わり、大好きな地元、大好きな友達と離れ離れになり、ストレスからかご飯が食べられなくなった(珠洲市)
- ・ご飯が食べられないので、給食の時間が嫌になり二次避難先への学校へも行けなくなった(珠洲市)

- ・田舎の小さな学校から大きな学校へ転校となることへの不安(珠洲市)
- ・震災後から自宅に帰れないため、精神的に疲れてきている。仕事で子どもと離れることが不安(珠洲市)。
- ・地元に残るのが正解なのか、地元から出た方が正解なのか悩んでいる(珠洲市)。
- ・断水続きで行けるお風呂が自衛隊しかなく、待ち時間が長すぎる。お風呂に気軽に行かせてあげたい。公園に行って思いっきり遊ばせたい(珠洲市)。
- ・家も直したいが、子供の学費もかかるしどうすればいいかわからない(珠洲市)。
- ・学校が避難所になっている、水が使えずトイレ環境が整っていない、体育館も運動場も使えない学校でストレスがたまらないわけがないと思います(珠洲市)。
- ・仮設が急務なので仕方がないとはいえ、市内全ての小学校のグラウンドが使えない状況で、野球やサッカーをしていることもほどこで練習をすればいいのか。このままでは、子供のいない、高齢者だけの地域になってしまうのでは(珠洲市)。
- ・学校の今後の展望を示してほしい。そうしないと住民の流出は止まりません。震災後何も考えられない人はまだまだたくさんいます。今のままでは、子育て家庭はどんどんいなくなります。そうならないための指針を早めに示して安心させて欲しい(珠洲市)。
- ・子供に何度環境変化をさせなければならないのか。どうしていいかわからないことだらけ(珠洲市)。
- ・学力の低下の懸念、新しい学校に馴染めるか、避難所ではする事が、無いのでゲームばかりしていたので、ゲーム依存が心配、また、甘えてくるようになった(珠洲市)。
- ・人口が減っていく今、親の仕事の都合でこのまま珠洲市で子供達を育て生活していくべきか否か(珠洲市)。
- ・今後の生活拠点をどこにするのかを決めきれず不安に感じている。小学校や中学校を合併していくのか、高校は残るのかなど、それによりこれからのことを考えていかなければいけないが、そのビジョンが全く見えない。そのため、珠洲を出て行きたいという子育て世代も多く、そこにも不安を感じる(珠洲市)。
- ・能登半島地震の支援金は高齢者と児童手当を受給している人にはあると聞きましたが、
大学生を持つ親にも支援がほしい(珠洲市)。
- ・子供の精神面、新しい学校でちゃんと馴染めるのか(珠洲市)。
- ・奥能登の高校生の学習量が他の地域よりより少なく、生活が大変であっても、能登の地域ごとに勉強出来る場所や学習支援がほしかった(珠洲市)。
- ・生徒が減り学校の廃校、統合がこの先続いていくのは目に見えており、復興にあたってはお金を無駄にすることがないように、早く子供達を一つの学校に集め集中的に教育を進めてほしい(珠洲市)。
- ・出来るだけ多人数での学校生活を体験させたい。少ないままでは、競争意識も無く、クラブ活動も出来ないため都会の子達との格差も開く一方になり、能登での子育てに不安が尽きない(珠洲市)。
- ・自宅も収入も無いので、不安(珠洲市)。
- ・中高生の進路が不安(珠洲市)。
- ・子どもと離れて暮らす選択をしたことがとても寂しい(珠洲市)。
- ・新しい環境で新しい保育所、小学校での生活にうまく乗り越えられるか心配(能登町)。
- ・小学校が使えなくて中学校を使用しているが、今後どうなっていくのかという情報が一切ない。この先能登にいて子供が望む勉強やスポーツが出来るのか不安(能登町)。
- ・同級生が避難や転居で減ってしまった(能登町)。

- ・小学生の子供が一人でいるのを怖がる(能登町)。
- ・家族で震災後から現在も車内泊です。成長期なので心配です(能登町)。
- ・学校への通学方法。学校へのバスがない(能登町)。
- ・小学校が使えなくなり、思いっきり走り回れる場所もないです。本来ならば、新 1 年生で元気に走り回る姿を思い描いていたが、それができない。子供が元気に遊べる場所がほしい(能登町)。
- ・祖父母が二次避難しているため面倒を見てくれる人がいない。私も夫も夜勤がある仕事をしているのでかなり困っている(能登町)。
- ・休日に子供を外で遊ばせるのが難しい(能登町)。
- ・習い事が全てなくなり、学校も休みや短縮が多く、宿題もあまりなく、家で勉強する習慣がなくなってしまった。家でゴロゴロゲームや YouTube を見てばかりいるので、これから先が不安(能登町)。
- ・被災後、自宅で過ごす時間の大半がゲームや動画視聴の時間となっている。ゲーム等は親の近くで安心して遊べるので安心感があるように見えるが、身体を動かし遊ぶことが少ないことが課題(能登町)。
- ・震災後、不登校気味になった子供の相談をどこにしたら良いのか分からない(能登町)。
- ・震災後、子どもが乱暴になった。小学生の子も勉強に集中できなくなり、やる気が低下しているのを感じる。1 歳の子は、保育所以外、母親から離れるとすぐ泣く(能登町)。
- ・仮設住宅に入りたいが、子供が騒がしいと迷惑になるので、損壊している自宅で過ごすしかないと思うと不自由(能登町)。
- ・少しの地震でも不安を感じている様子なので、安心して過ごせるようサポートしていただくカウンセリング体制を整えてほしい(能登町)。
- ・地域の人口減少による経済的な不安(能登町)。
- ・子ども支援があまりにもなさすぎる、子どもの居場所がない事が悩み(能登町)。
- ・地域の過疎化が急激に進み 将来的に 我が子に この家に住み続けていいよと言えない(能登町)。子どもは地域の祭りがあるからこの地が好きと言ってくれるが、祭りすら開催されるか未定。生業もままならない生活でどう生きて行けばいいのか。未来計画を具体的に立てられず ただ時間が過ぎていくのが辛い(能登町)。
- ・毎日生きるのに必死で悩む時間がない。もうちょっとしたらガタガタと心身ともに崩れてくるのでそれがいつになるのか分からない(能登町)。
- ・被災の影響で、対人に不安を子供が感じていたりしている。食べる楽しみの場の提供があっても出にくい(能登町)。
- ・経済的な子育て支援が足りない(能登町)。
- ・半壊や全壊した建物がまだのこっている地区での生活が続いているので、心が休まらない。少し足を伸ばして遊びに行きたいが、子供だけで遊ばせるのも不安(能登町)。
- ・子供が一人でトイレに行けない。夜寝る時泣き出す。おねしょをする頻度が増えた(七尾市)
- ・不登校だったので、中学校に入学しての学習面が不安(七尾市)。
- ・子供の運動不足。YouTube などのデジタル時間が増えたこと。学習の遅れ(七尾市)。
- ・震災直後は食欲が全くなく、子供から笑顔が減った。学校が休みで友達に会えないストレスでゲームする時間が増えた(七尾市)
- ・地震の影響で出来なくなった授業などがあると思うので、子供の将来に影響してこないか心配(七尾市)。

- ・道路状況が悪い、交通量が多く信号がない道を横断できない、事故が多発している、田舎で防犯カメラなどがなく通学路も防犯面で不安があり、登下校での負担が大きく子どもも不安に感じている(七尾市)。
- ・被災し、近くに習い事や塾などが無くなった。または遠くまで送迎が必要になった(七尾市)。
- ・進学のと時期に重なり、経済的負担が大きい。出費だけがかさんでいく状態が厳しいと不安(七尾市)
- ・家が傾いており、家の前を普通車が通る度に揺れる為、子ども達が家で集中して勉強出来ない。また就寝時もいつ 2 階が崩れ落ちてくるか心配で寝れない。既存の建築物に住んでいて大丈夫か相談したいが、何処に相談すれば良いのかわからない(七尾市)。
- ・能登の人口が減少することが予想される中で、高校へ入学する頃に学校がどうなっているのか。子どもの数が減れば学校の質も下がるのだろうかと思案とした不安がある(七尾市)。
- ・最初の頃はずっと泣いては食欲もなく揺れては不安になりでなだめるのが大変だった(七尾市)。
- ・平日は仕事があり、休日に自宅の片付けをしたいのですが、子供が自宅に怖がって近寄れないため、自宅の片付けも思うようにすすまないことが困ってます(七尾市)。
- ・震災にて失われた通学路。通学路がボコボコで転んだりしている(七尾市)。
- ・外遊びに制限がある。地割れなど、子どもを遊ばせるには大変不安が残る環境。また、スポーツ活動において、体育館、グラウンドの修繕工事が無いため限られた活動しかできていない(七尾市)。
- ・給付金の額の少なさに疑問。子供達のために使うお金なら一人 1 万では全く足りない(七尾市)。
- ・大人の焦りが子供に伝わり、色んな気持ちを我慢させていたと思う(七尾市)。
- ・震災後は断水で不衛生な環境下が続き、子供がトイレに行かなくなった(七尾市)。
- ・元旦の震災時に猫が居なくなり、一緒に避難できず、ずっと泣いていた娘…『地震が来るかも』と毎晩閉じ込めてしまうように…。
- ・子供に学習の場が提供されている学校とそうではない学校の差がある。心のケアは全くない(七尾市)。
- ・震災後、子供たちはイライラして、文句ばかり言う。食欲も落ちた。勉強に集中しないし、すぐ母親を探し、いないと不安になっている(七尾市)。
- ・吃音が出るようになってなった トイレに行きたがらなくなった(七尾市)。
- ・どこも同じなので、どうしようもない状況だが、危険家屋が多くなり、登校中など、子供だけの時に余震があったらという不安は常にある(七尾市)。
- ・あの大きな地震を体感して仕方がないとは思いますが、今まで 1 人でできていた事が怖くてできない(七尾市)。
- ・震災で家族全員が家の下敷きになり、奇跡的に助かりましたが今でも「いま地震来たら死ぬよ」と度々言います。家の中でも一瞬でも親の姿が見えなくなると探し回るようになりました。トイレ等も 1 人で行けなくなりました。震災から丸 3 ヶ月経ちますが、心の傷はなかなか癒えなさそうです(七尾市)。
- ・子どものことで相談しようと思っても、震災対応で忙しいかと思うと、子ども園や子育て支援課などに連絡したり話したりしづらいです。また、自分も震災があったことで今まで以上に仕事で忙しく、余裕がないです(七尾市)。
- ・震災は母子家庭では通常に困っていることと比例している(七尾市)。

- ・大幅な収入の減少で、これからの進学に不安がある(七尾市)。
- ・震災を境に、生活が一変してしまい、避難所や、みなし仮設のアパートでは、大きな声や、音を出さないよう、静かに！と言うことが多くなった。いつ自宅に戻れるかもわからず、金銭的にもとても不安で、私が情緒不安定になったりする事もあり、それも申し訳なく思います…。
- ・断水のため、食費や銭湯代、洗濯代など思わぬ出費が重なったが、被災したことによる金銭的な配慮がなかった。私立高校の受験料や入学金、公立高校の入学準備品の購入など、自宅が半壊以上でないと免除してもらえない(七尾市)。
- ・息子は、不登校でしたので、学業や学校の事で、震災後、特に支援を求める事はなかったですが、震災により、多くの人が学校に行けなくなり、行政や学校も学校以外でのオンライン化を進め、色んな方法での教育支援を普及させました。さまざまな事情の子供達に、今後、より良い教育支援がてきる市町であって欲しい(七尾市)。
- ・育児に関して相談機関に行っても、あまり真剣に耳を傾けてもらえないのが現状(七尾市)。
- ・4才の子どもが「地震です！地震です！」と言って遊ぶ時があり、まだ震災の影響があるのかなと心配している(七尾市)。
- ・被災した時靴下で上着も着れずに外に避難していたので寒い事に異常に防衛反応が働き…でも懸命に踏ん張って居ましたが…慣れてきたら移動、慣れて来たら移動…にストレスも限界になり、現在の避難所に来てから心因性頻尿になっています(志賀町)。
- ・病院職員のため、大変な状況の職場に行かなくてはという気持ちはありましたが子ども達だけを残して行くこともできず被害がひどい職場に連れていくこともできず葛藤があった(志賀町)。
- ・障がいのある子がいて、最初こそ避難しておりましたが、避難所での居場所がなく出る選択肢がなかった。子どもが多く、物資もいただく時に人数を伝えると疑われたり嫌な気持ちばかりだった。障がい児を抱えていても安心できるような環境をととのえてほしい(志賀町)。
- ・震災後、支援等で仕事が忙しすぎて、子どもとゆっくり過ごす時間、心に余裕がありません(志賀町)。
- ・少子化へ向けて急加速してしまった。もとより子どもが十分な医療やサポートを受ける事が出来ない奥能登の状況が、さらに悪化してしまった(志賀町)。
- ・仕事後は、暗い中、入浴と洗濯のためのコインランドリーに通うのもしんどかった。通水するまでは、本当にしんどかった。入浴は、自衛隊さんが居たからお金はかからないが、コインランドリーは、時間もお金もかかった(志賀町)。
- ・仕事をしている時間に、入浴のための整理券の配布や水の配給の時間が終わる毎日(志賀町)。
- ・地震後不登校になった(志賀町)。
- ・やる気があがったり下がったりする環境変化が多すぎて何事もすぐにあきらめる子供になるのではと心配(穴水町)。
- ・発達障害児 2人いる中、環境の変化に対応出来なく苦労した。しょうがないけど、誰も頼れなかった(穴水町)。
- ・震災後、子供の集中力の低下やイライラしていると感じる事が増えたように思います。
- ・震災後の給食がずっと缶詰や長期保存パンしか提供されず、給食が嫌だと休み始める子供が増えた。避難所にいた避難者の食事も大事だが、子供の食事も大事だということをお忘れしないで欲しい(穴水町)。
- ・災害どろぼうがあったり、性被害の心配もあると、常に親が側にいるようにしています

(穴水町)。
・地震があつて、環境は突然変わることもあると知ったら、学校に行かなくても良いかという諦めに繋がって宿題をやらなくなったり、学校に行かなくなったりしていること(金沢市)。
・震災以降というよりも、コロナ禍以降からの負担感が、震災によってさらに増した、積み上がった感がある(宝達志水町)。

〈アンケート調査を通して〉

能登地震、あまりに範囲が大きく、そして支援が行き渡らず、どこで何が必要とされているかわからない。あっちからもこっちからも生存に関わる声がネット上に多く流れ、そのたびに走り続けたグループも多かったのではないのでしょうか。

そんな状況がずっと続く中、子どもたちは大丈夫なんだろうか、子育て中の親御さんは何に不安を感じ、どんな支援を求めているのだろう、体力があるということで後回しにされる子どもたち。でも、子どもたちも大人と同じように不安を悩みを心配を抱えている、これからの能登に住み、復興を担うのは彼ら。その声を聴きたく、そして彼らを育てる親の心の声を聞き取り、次の支援に活かしたい。

今から思えばかなり思い上がりではあるが、アンケート調査をするしかない、そう思い、やったことのない、聞き取り調査に乗り出しました。アンケートは金沢大学の鈴木先生のぜひ一緒にやりましょうの力添えで設問作成にもお知恵をいただき、返信しやすいボリュームのアンケートができたのが3月中旬、能登を走り回り、また二次避難の方の声を聴きたく、ホテルや、イベントがあればかけつけ、声を聴かせてくださいと飛び回りました。いろんな方にも拡散してもらい、また近くの対象の方に声かけもしていただいたりで、800件をこえる回答がわずか2週間で集まったのには自分たちもびっくり。

奥能登の珠洲、輪島には中々足を運べず全体の1割強しか回収はできませんでしたが、それでも書いてくれた一つ一つには襟を正し読むしかない真剣な声が寄せられていました。

数値化された統計データとしてだけでなく、一人の生身の声として読み込み、これからのなにがしかの支援につなげて行きたいと思っています。一つの NPO ができることはたかが知れているかもしれないが、できることを一つでも探し動かたくと思っています。

〈アンケート結果より感じたこと〉

1. 子どもの居場所のニーズより物資の支援が数的にダントツに多かったことは、今もまだ生活すること、生きることに関わりの状況が見て取れる。親の、子どものことは心配しつつも、生活に目を向けざるをえない葛藤が感じられ、胸が痛くなる声であった。
2. 地震後特に保育児世代が、不安で親元を離れられない、赤ちゃん返りする、身体に影響が出た等々の書き込みが多かった、地震後の子どもたちの心身のケア活動が今後よ

り大切になってくるように思われる。

3. 子どもを預けるところがなくなった、送迎が大変、子どもを見るために仕事ができなくなっているという声も多くあり、生活と子育てのはざままで悩む親御さんの姿が目につかんでくる。ただ、行政の力でできる分野でもあるように思い、今後支援を呼び掛けていきたと思う。
4. 言動が乱暴になっている、何をやっても無駄とあきらめになっている、避難所ですることなくゲーム三昧になっている等、地震後の環境の変化が子どもに影響を与えている声も多くあり、不登校になった等も含め、寄り添いの支援が早急に求められている。
5. 親御さんからは安心、安全の場で子どもが子どもらしく、自然の中で大人の優しい見守りの中遊べる場が必要という声も多数あり、また被災中に子どもの居場所がとてもありがたかったという声もあり、居場所の必要性がアンケートからも伝わってきた。
6. 障害を持つ子ども、発達系の子ども、そして不登校、引きこもりの若者たちの居場所が避難所によってますますなくなり、地震後に車中泊していたという書き込みがいくつか寄せられていて、災害時の彼らへの配慮の難しさが改めて今回の地震でも浮き彫りになったように思った。
7. 奥能登と七尾市近辺ではやはり見えているものが違うように感じた。奥能登の声はこれから住めるのか、どうしたらいいのか、ここに住む選択が子どもにとっていいのか等、地域が存続できるかどうかの声が多かったが、七尾ではこんな場所があったら、こんな施設ができてほしいといった住む前提での声が多く、能登と一つでくれない難しさを感じた。
8. 学習の遅れ、習い事ができなくなった等、地震による教育の格差への心配の声も多くこの冬の3か月間の子どもたちの教育環境の厳しさが感じられた。
9. 子育てに関して支援というものを感じれなかったという回答が多く、行政の支援と当事者のマッチングに差異があることを感じた。もちろん、今回の災害のようなケースではどれだけ支援を受けても際限がないのは事実ではあるが、声を聞き取ることの大切さを思った。

いろいろな角度からいろいろな見方ができる回答だとは思いますが、自分がこの3か月能登に半分近く入り見てきた感覚から感想を書いてみました。1か月後にはまたニーズや悩み心配も変わってくると思います。ですが、今この時期の声として受け止めていきたいと思っています。

特定非営利活動法人 ワンネススクール 代表 森要作